漁業地帯に於ける消費者の購買慣習

――北海道増毛郡増毛町を中心として――

岡本理一

一　漁業地帯の特殊性と商業

一般に「商業」がその地域における自然的、經濟的、社会的諸事情によつて種々の影響をうけ、ために經營上、幾多の制約を蒙つて、そこに「地域商業」という概念を生じ、これの研究がはなはだ重要であること、すでに本誌第五卷第一號（昭和二十九年六月刊）の拙稿で述べたとおりであるが、このような事柄は、北海道の各方面における漁業地帯の商業についても同じく顯著にみられる。由來、漁業によつて生計をたてる地帯、いわゆる「漁村」にあつては、人々の生活をささえる所得、換言して、漁業用資材の購入や生活用品の買入れに要する資金、すなわち、その購買力は、まつたく魚類、貝類、海草類など、いわゆる水産物の採捕、養殖、加工をおこない、それらを販賣して得た收入に依存すること大きいのであるが、しかし、これら水産物の生産が漁場の位置、潮流、氣溫、天候、魚類の洄游性――など、人爲をもつては如何ともなしがたい自然的條件から、相當、大きな作用をうけていることは、これらに、

直接、關連ある漁業經濟や人々の社会生活に種々の影響をあたえ、さらにそれが商業の面にも波及して、現實の形態や發展の過程に多くの制約をうけしめ、他地域の商業とはいちじるしく異る様相を呈するにいたらしめている。いま、その間の事情をうかがつてみると、下のとおりである。

まず、漁業が上述のような自然的條件から大きく制約をうけていることは、生産經營の方式や人々の經濟生活——とくに消費生活——に特異な制度や慣行を生ぜしめている。たとえば、北海道沿岸の鰊漁地帶にあつては、漁期から向後一カ年間の漁業經營に要する生産費や家庭生活に要する生計費のごとき、ほとんど全部が春鰊漁の收入に依存しており、しかも漁獲高がその時期の水溫、風向、潮流などによつてはなはだしい增減をみるため、結局、經營も生活も非常に不安定な狀態におかれることとなる。また、經濟的にみて、それに投機性の多いことは、市中銀行などのすすんで融資するところとならず、着業、集荷、加工などに對する金融措置としては、舊來の仕込制度が續行されていると同時に、町内の商業者、給料生活者、自由職業者など、多少とも資金を有するものがそれに投資し、有力な役割をはたしていること少くない。そして最近は、いわゆる「系統金融」（農林中央金庫——北海道信用漁業協同組合連合會——單位漁業協同組合）もかなり強化せられて、これに依存する漁業者も多くなつてきている。いずれにせよ、漁業のうける自然的制約とこれからきたる經濟的投機性のため、一般の商工金融とは相當に異る特殊性がみられるのである。

次に、漁業者が上述のような年數回の漁獲收入によつて生活を營んでいることは、商品の購入にあたつて、漁期末を支拂日とする「掛買」を頻繁になさしめている。これは、漁村の人々が日々、月々、きまつた收入を得ていない當然の結果であつて、生産用資材の購入についてはもちろんのこと、日々の消費に供する生活用品であつても、月末や漁期の終りごろに支拂う約束で買入れることが多い。ところで、商業者の側にあつては、そのような漁村の人々のも

つ不定の收入狀態を考えるとき、たとえ不合理な經營法であると分つていても、掛買に應ぜざるを得ないような實情にある。その實例は本稿でとりあげた增毛町において如實にみることができる。すなわち、そこでは町内全體にわたり、一部の食料品などを除き、ほとんどすべての商品について「掛賣」と「掛買」が長年の間、慣習的におこなわれてき、しかもそれは早急には改められず、今後も續行されるような狀況にある。しかし、このような慣行が商人側にとり、集金その他に少なからざる手數と費用を要さしめ、また貸倒による損失も生じやすく、おのずからその對策として賣價の引上げをなすにいたるは當然のこととなり、結局「增毛町の物價は高い」――という世評をうけるほど、町全體に「物價高」の現象をみるにいたるのである。

さらに、上述のような漁業地帶における經濟的特異性は、ひいて人々の社会生活の諸方面に波及して、獨特の社会制度や生活慣習を生ぜしめている。たとえば、網元から網子に對して漁業資金を貸付けるところの仕込制度は、依然、封建的な主從關係に等しい風習を殘存せしめ、協同組合運動の進展や漁村文化の向上などによつて、漸次、除去されていくけれども、なお、上述のような漁業に對する自然的、經濟的制約のゆえに、それを完全に除去することは困難な實情にある。また、前述のような商品の購入にあたつて掛賣買を余儀なくされているという經濟的特異性は、人々に計畫性のある日常生活をおくらしめず、ときに豊漁によつて大金を得たような場合には、いわゆる「宵越しの金は使わぬ」という流儀の、その場かぎりの浪費的生活におちいりやすいのである。したがつて、都市の人々のように、極力、生活上の無駄を省いて貯蓄につとめ、よつて「家計の合理化」をはかるというようなことは望みがたいのである。

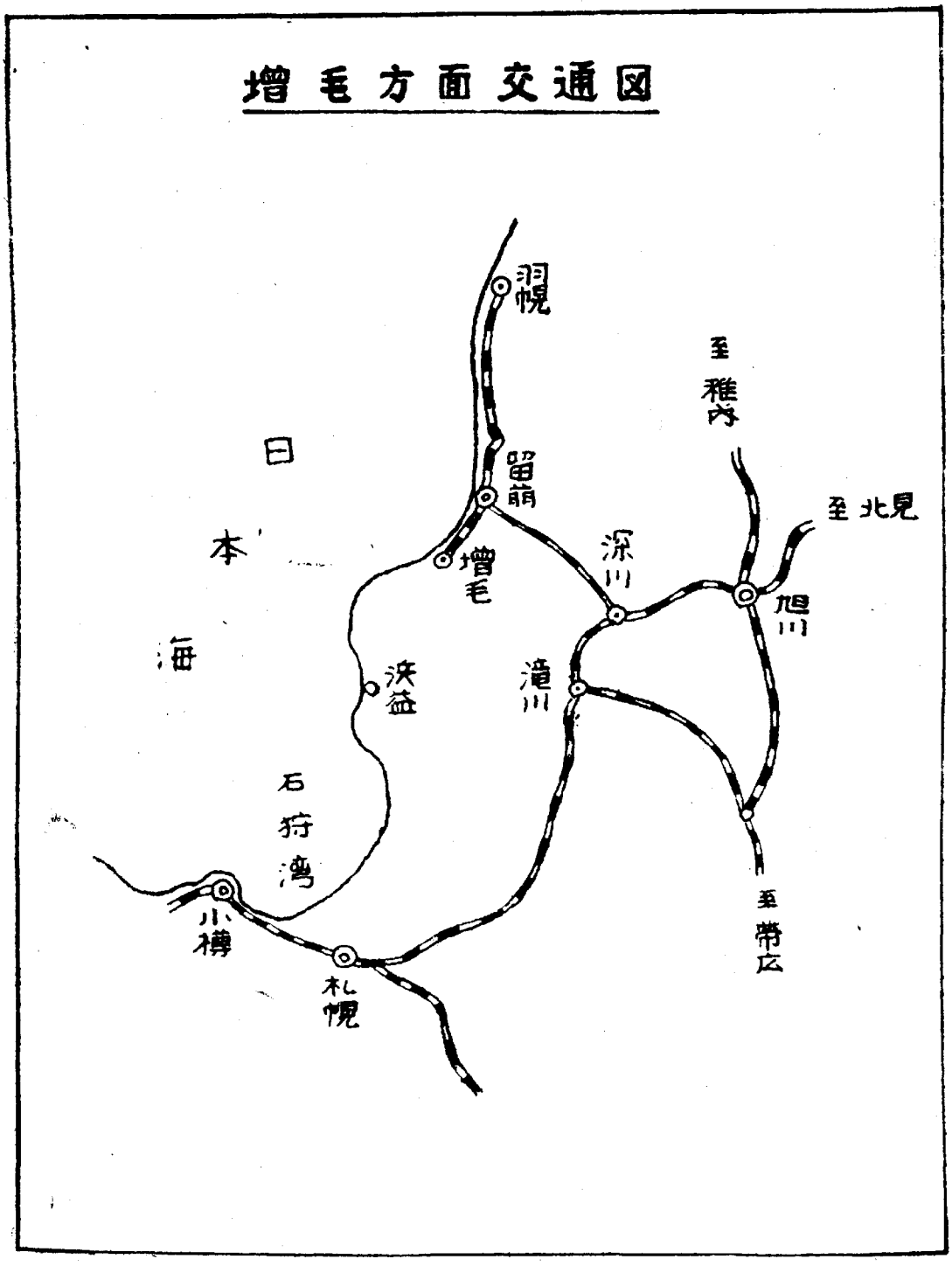
ところで、このような漁村の人々の生活態度や消費慣習が、その地帶の商業經營に特別の影響をあたえていることというまでもない。すでに「掛賣買」の常習化が經費の增加をみ、ひいて賣價の引上げをなさしめていること、上述の

とおりであるが、さらに商人が豊漁時など、一時的、多額の購買力を相手として取引をおこなつていることは、地味な經營を忘れさせ、放漫なままでそれを續行させる結果となつている。すなわち、商品の仕入や販賣にあたつて合理化の必要性をいつまでも意識せしめず、舊態依然たる目の子算式商賣や濡れ手で粟式の植民地的商法を墨守して、平然としているような狀態である。しかしながら、これが、漸次、他都市や周邊町村における商店に顧客をうばわれ、多くの購買力を吸收されることとなり、おのずから經營の困難を招いているのである。

以上のとおり、漁業地帶の商業は、そこに存在する自然的、經濟的、社會的諸事情によつて種々の制約をうけ、たとえ一般社會の經濟組織が資本主義的に相當の發達をとげても、それから取りのこされること多く、その經營組織や經營方法などの諸點において、近代的合理化に相距ること大きいのである。今日、小賣經營の合理化をはかるにあたり、少々の掛賣は避けがたいことであるとしても、その大部分を現金賣によつておこない、もつて經費の節減による賣價の低下が、當然、望まれるにかかわらず、既述のような漁業收入の不安定性によつて、それが實現せられないのである。それゆえ、この面における商業經營の合理化をはかるためには、なによりも、漁業の生產關係を近代化することが先決問題と考えられ、このような經濟過程上の商業以前の課題を解決せずしては、十分な成果はあげがたいのである。したがつて、これが經營の合理化をはかり、また外部から振興に必要な對策を講ずるにあたつては、かの大都市における中小商業對策と同一のものであつては十分でなく、たとえ一般的對策は等しくても、なお、漁業地帶なるのゆえに存在する特殊性をよく勘案して、その上に獨特の施策をみることが肝要と考えられるのである。ここに、筆者の主張する「地域商業」研究の重要性がその一例證としてみることができ、そのため、實態をよく調査して經營上の困窮原因を探究し、同時に有效な獨自の對策がたてられねばならぬ。

この小稿は、以上のような理由にもとづき、既述の前稿と同樣、北海道における「地域商業」研究の一部として、

その代表的な漁業地帯とせられる「増毛町」において、昭和二十九年三月から五月にかけ、生活必需品を中心に、一部生産資材を加えて、消費者の商品購入先を調査した結果を記述したものであつて、要點は、地元購買力の「町内の商店」「留萌市の商店」「旭川市の商店」「札幌



市の商店」――などの間における分散狀態を明らかにするにある。また、上記のような地元購買力の町外への流出については、種々の理由があることというまでもなく、とくに増毛町の「物價高」ということが、實地探査の際、見聞されたので、これに關する事實をも確認するため、若干の調査を附加した次第である。

最後に、この調査にあたり、「増毛町」をえらんだのは、同町が北海道の北西部に位置して日本海にのぞむ本道屈指の漁業地であり、とくに春鰊漁にはいわゆる千石場所として名を知られ、他方、一郡をもつて一町を構成し、人口一六、九五三人、世帯數二、七九三（昭和二十八年十月一日現在）、商店數二一一五（昭和二十七年七月一日現在）をかぞえる商業都市でもあり、漁業の商業におよぼす影響を調査、研究するのには、絶好の場所と考えられたからである。また、同町では、掛賣買がはなはだ多く、毎月、掛代金の集金日――たとえば月末や五日――には、町の公の行事などの開催を、商人多忙のゆえに、避けているという現狀や、さらに、その物價がかなり高いため、町民の中には留萌市まで出掛けて買物をするものがはなはだ多く、一部の買回品や高級品については旭川市や札幌市などで買求められている實情は、「地域商業」の研究上、適宜の題材をあたえているように思われるのである。その留萌市、旭川市など近傍都市との間における交通圖を示すと前ページのとおりである。

二　消費者の商品購入狀況

一　消費調査の方法

まず、調査方法として、一定地域の消費者に質問者を配付し、事實についての記入を求める「質問書式法」をとつたことは、すでに「農村地帶」および「炭礦地帶」の消費調査をおこなつた場合におけると同樣である（本誌第四卷第一號および第五卷第一號參照）。その調査書の樣式は下掲（第1表）のとおりであり、また質問事項は左に示すとおりである。

第1表　北海道消費調査

（漁業地帯の部）　昭和29年5月　小樽商科大學商業學研究室

記入者の皆さんへ——
この調査は、北海道の商業を振興し、私たち道民の生活を向上していくため、必要な資料を得る目的で、道内の各地で實施しているものです。面倒なことをお尋ねして恐縮ですが、趣旨を諒承の上、御協力下さるようお願い致します。

整理番號		あなたの住所	市町村	あなたの家の職業該當のものを○印でかこんで下さい	公務員、勞務者、教員、會社員、漁業、商店主、工場主、その他
あなたの家の家族	父、あり、なし 母、あり、なし	兄　人姉　人 弟　人妹　人	その他　人		

下記の各種の商品について、主にお宅のどなたが、主にどこでお買求めになりますか。最近の分について記入して下さい。
但し、買求めた場所は次の番號をもつて記入下さるよう願います。

買求めた場所	番號	買求めた場所	番號
町内の小賣店のとき	1	漁業協同組合のとき	7
留萌市の商店のとき	2	他の町の商店のとき	8
旭川市の小賣店のとき	3	内地都市の商店のとき	9
旭川市の百貨店のとき	4	通信販賣のとき	10
札幌市の小賣店のとき	5	その他のとき	11
札幌市の百貨店のとき	6		

品名	買求めた場所	買求めた人	品名	買求めた場所	買求めた人
服地（生地）			米		
背廣服			味噌		
婦人服			醤油		
子供服			酒		
呉服・反物			砂糖		
シヤツ等下着			野菜		
毛糸			魚類		
セーター			果物		
帽子			菓子		
ゴム靴			文房具		
皮靴			書籍		
家具類			雑誌		
金物			スポーツ用品		
時計			玩具		
ミシン			漁網		
自轉車			漁業用資材		

下の問いに答えて下さい。（該當のものを○印でかこんで下さい）

Ⅰ　増毛町の物價は一般に高いと思いますか。
高い（何割位ですか）
高くない

Ⅱ　増毛町の商品で他の都市などにくらべて、とくに高いと思うものにどのようなものがありますか、品名をあげて下さい。

Ⅲ　留萌市へ出掛けて商品を買う理由は何ですか。
値段が安い　品物が豊富である　品質がよい　信用できる　スタイルがよい　サービスがよい

Ⅳ　旭川市や札幌市の商店で商品を買う理由は何ですか。
値段が安い　品質がよい　信用できる　スタイルがよい　出張したついでに買う

次に増毛町の住民の商品購入先や購入者を知るにあたつて、そこに所在する北海道立増毛高等学校（昭和二十三年四月一日設立）の生徒の家庭を對象とした。この高等学校の生徒は、町内各方面において種々の職業をもつ家庭からかなり平均的に通学してきているように思われるので、これら生徒に調査表を配付し、所定事項の記入を求めて得た結果の總計は、大體において、増毛町民の購買動向を明示しているものとみて差支えないであろう。

さらに、調査事項としては、調査表にもあるとおり、一般的なものに、住所、世帯主の職業、家族の構成――があり、また商品別購入先別事項としては、下述のようなそれぞれの商品を、家族中の父、母、兄、弟、姉、妹、本人（生徒）などのうち、誰が主にどこ――(1)町内の小賣店、(2)留萌市の商店、(3)旭川市の小賣店、(4)旭川市の百貨店、(5)札幌市の小賣店、(6)札幌市の百貨店、(7)漁業協同組合、(8)他の町の商店、(9)内地都市の商店、(10)通信販賣、(11)その他――で購入するかということを尋ねた。調査の對象とする商品としては、(1)服地（生地）、(2)背廣服、(3)婦人服、(4)子供服、(5)呉服・反物、(6)シャツ等下着、(7)毛糸、(8)セーター、(9)帽子、(10)ゴム靴、(11)皮靴、(12)家具類、(13)金物、(14)時計、(15)ミシン、(16)自轉車、(17)米、(18)味噌、(19)醤油、(20)酒、(21)砂糖、(22)野菜、(23)魚類、(24)果物、(25)菓子、(26)文房具、(27)書籍、(28)雑誌、(29)スポーツ用品、(30)玩具、(31)漁網、(32)漁業用資材――の三十二品目としたが、大體、一般の家庭で、平素、需要する商品と、漁業地帯の特殊性にかんがみて漁網と漁業用

第2表
消費者の職業別一覧
（増毛町）

職業	人數	百分率
	(人)	(%)
公務員	17	10.5
漁業	57	35.2
教員	9	5.6
勞務者	5	3.1
工場主	2	1.2
商店主	21	13.0
會社員	7	4.3
その他	44	27.1
合計	162人	100.0%

資材を加えたのである。

なお、調査表の配付數と回收數について記せば、同校の一、二年生二百名に一人一枚ずつ、計二百枚を配付して百六十二枚を回收したので、回收率は八一％となつている。その職業をみると第2表のとおりであつて、「漁業」が最も多くて三五・二％を占め、よく漁業地帶の特色を示している。次いで「その他」が二七・一％となり、この中には農業者がかなり含まれている。「商店主」は一三・〇％あつて、商業地であることを物語つている。

二　增毛町に於ける商品購入狀況

(一)　服地（生地）

記入者一四六のうち、「町内の小賣店」（六八）、「留萌市の商店」（五五）の兩者からの購入が最も多い。留萌市の商店からこのように多くの購入者をみていることは、注目を要しよう。また「旭川市の小賣店」（一一）、「旭川市の百貨店」（二）からの購入が少々あること、さらに「札幌市の百貨店」（五）からの購入も僅かながらみられ、あわせて全體の一二％にものぼつていることは、地元購賣力がかなり遠方に流れているのを示すものといい得る。

次にこれを職業別にみると、どの職業の家庭も、大部分、購入しているが、とくに「教員」と「公務員」の家庭に多いようである。反對に「勞務者」や「商店主」の家庭では、割合にそれが少いようにみられる。

さらにその購入者に、「母」（七九）が最も多く、次いで「姉」（二五）となつているのは、商品の用途からみて當然のことであろう。なお、「父」（二一）の購入も姉に次いで多い。

(二)　背廣服

記入者九六のうち、「町内の小賣店」（三五）と「留萌市の商店」（三一）の兩者からの購入が多いが、とくに留萌市の商店からの購入が地元の商店からの購入に及ばんとしているのは注目に値する。また「札幌市の百貨店」（九）から

の購入が全體の約一〇%もあることや、「旭川市の小賣店」(七)、「旭川市の百貨店」(四)あわせて一四%もあることなども留意を要しよう。札幌市や旭川市の百貨店に地元の購買力が吸收されているのは、そこで取扱う既製服が買求められているものと察せられ、また、留萌市の商店からの購入の多いのも、地元の洋服商では品質、價格、スタイルなどの諸點で、人々の欲求を滿足させ得ないことによるのであろう。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「教員」などの家庭で購入するものが割合に多く、そのほかの家庭ではあまり多くない。

さらにその購入者に、「父」(三七)、「兄」(一五)の多いのは、用途上からみて當然のことであろうが、「母」(三四)の手による購入の多いのも留意を要する。

(三)　婦人服

記入者七八のうち、大部分は「町内の小賣店」(三二)と「留萌市の商店」(三二)とで購入されているが、留萌市の商店からの購入が增毛町の小賣店からのそれと同數にのぼつているのは、買回品性の强い婦人服のこととはいえ、注意を要する。また「旭川市の小賣店」(四)、「旭川市の百貨店」(二)、「札幌市の百貨店」(四)――など、あわせて全體の一〇%をこえているのも輕視できないであろう。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「漁業」の家庭に購入者が多く、「会社員」、「商店主」、「工場主」、「その他」ではそれが少いようである。

さらにその購入者に、「母」(四六)、「姉」(二九)の多いのは、商品の用途からみて當然のことであろう。

(四)　子供服

記入者一〇六のうち、「町内の小賣店」(五二)が多く、「留萌市の商店」(四〇)が次いでいる。また「旭川市の

小賣店」（六）、「旭川市の百貨店」（二）も少々みられる。しかし、子供用品であるためか、札幌市の商店からの購入はほとんどない。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「教員」、「漁業」、「工場主」、「その他」の家庭に購入者が多い。

さらにその購入者に、「母」（七八）が壓倒的に多いのは當然のことであり、「姉」（一四）、「父」（八）の購入も少々みられる。

(五) 呉服・反物

記入者一二三のうち、「町内の小賣店」（五五）からの購入が多く、「留萌市の商店」（四四）がそれに次いでいる。上述の諸商品と同様、留萌市の商店からの購入の多いのは留意を要しよう。また「旭川市の小賣店」（八）、「旭川市の百貨店」（三）からの購入が少々あるのも看過できない。なお、札幌市の商店からの購入はほとんどない。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「教員」、「漁業」、「商店主」、「その他」の家庭で購入者が多い。

さらにその購入者に、「母」（九一）が壓倒的に多いのは、當然のことであろう。「姉」（一六）、「父」（九）による購入も少々みられる。

(六) シャツ等下着

記入者一五〇のうち、「町内の小賣店」（八九）からの購入が最も多いが、「留萌市の商店」（四五）からの購入も全體の約三分の一を占めている。あまり高價な商品でないため、旭川市や札幌市の商店で購入されるものは少い。

次にこれを職業別にみると、どの職業の家庭でもよく購入されていて、特記するほどのことはない。

さらにその購入者に、「母」（九六）が壓倒的に多いが、また「姉」（一九）、「父」（一四）の購入もみられ、生徒自身を示す「自分」（一一）や「兄」（六）による購入も少くない。

(七)　毛　糸

記入者一二九のうち、「町内の小賣店（七一）からの購入が最も多いが、「留萌市の商店」（三四）からの購入もかなりみられる。また「旭川市の小賣店」（五）、「旭川市の百貨店」（四）、「札幌市の小賣店」（三）、「札幌市の百貨店」（二）、「その他」（七）――というように、他所での購入が割合に少くないのは、それぞれ特價品を求めているためかと思われる。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもよく購入されているが、ただ「勞務者」、「会社員」の家庭ではやや少いようである。

さらにその購入者に、「母」（六九）が多く、「姉」（三二）が次いでいるのは、商品の用途上、當然のことであろう。また「父」（一五）の購入が少々あるのは、旭川市や札幌市へ出掛けた際、特價品などを購入してくるものであろう。

(八)　セーター

記入者一〇〇のうち、「町内の小賣店」（五一）からの購入は半分にあたり、殘りの半分は他所で購入されている。「留萌市の商店」（二八）からの購入は全體の四分の一以上を占め、また「札幌市の百貨店」（四）、「旭川市の小賣店（三）、「その他」（九）からの購入も少々みられる。

次にこれを職業別にみると、「勞務者」の家庭に購入者が多く、「教員」、「漁業者」、「公務員」などの家庭では、それぞれ半數のものが購入している。しかし「会社員」の家庭では非購入者の方が多くなつている。

さらにその購入者に、「母」（五二）が多く、「姉」（二九）がそれに次いでいるのは、主に婦人用のものを購入しているものとみて、當然のことであろう。「父」（八）の購入も少々みられる。

(九) 帽　子

記入者一二三のうち、「町内の小賣店」（八四）からの購入が最も多いが、「留萌市の商店」（二五）からの購入も約二〇％にのぼり、また「旭川市の小賣店」（五）、「旭川市の百貨店」（四）からの購入が少々あるのも輕視できない。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもよく購入されているが、ただ「会社員」の家庭では購入者が少いようである。

さらにその購入者に、「母」（六五）が非常に多く、「姉」（一六）がそれに次ぎ、「父」（一三）、「自分」（一二）とつずいているのは、子供帽や婦人帽の購入が多いためであろう。

(〇) ゴム靴

記入者七七のうち、「町内の小賣店」（四八）からの購入が多いが、また、「留萌市の商店」（二一）からの購入もかなりあるのは留意を要する。北海道ではゴム靴につき、有標品があつて品質はきまつているから、地元の購買力が留萌市の商店に向うのは、價格の關係によるものと察せられる。

次にこれを職業別にみると、「漁業」の家庭で購入者がとくに多いようである。

さらにその購入者が、「父」（二九）、「母」（二六）、「兄」（九）、「自分」（八）――の順となり、男子が割合に多いのは、最寄品で買いやすいためであろう。

(二) 皮　靴

記入者一〇六のうち、「町内の小賣店」（四一）、「留萌市の商店」（三八）から購入するものが多い。しかし、上記のゴム靴と異り、「旭川市の小賣店」（一一）、「旭川市の百貨店」（三）、「札幌市の小賣店」（四）、「札幌市

の百貨店」（二）などからの購入が全體の二〇％にのぼつて少くないのは、その上等品につき、地元の商店では滿足できず、旭川市や遠く札幌市の商店で買求めているためであろう。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「教員」、「漁業」、「その他」の家庭で購入者が多く、「勞務者」、「会社員」、「商店主」の家庭ではそれが少い。

さらにその購入者に、「父」（三五）、「兄」（一八）などが多いのは、主に男子用の靴を購入しているためであろうが、また「母」（二七）、「姉」（一二）のかなりみられるのは、婦人靴の購入がふえたためと察せられる。

㈢　家具類

記入者一〇三のうち、「町内の小賣店」（五八）からの購入が多いが、「留萌市の商店」（三〇）からの購入もかなり多い。また「旭川市の小賣店」（七）、「旭川市の百貨店」（二）、「札幌市の百貨店」（二）、「他の町の商店」（三）などからの購入があわせて一三％もあつて少くないのは留意を要する。高級品がこれら都市の專門店で買求められているためと察せられる。

次にこれを職業別にみると、「教員」、「漁業」、「商店主」などの家庭に購入者が多く、「公務員」、「勞務者」、「会社員」、「工場主」ではそれが少い。

さらにその購入者に、「母」（五三）や「父」（四五）が大部分をしめているのは、家庭用のものであり、且、價格も低廉なものでないところからみて當然のことであろう。

㈣　金物

記入者一一九のうち、「町内の小賣店」（八六）からの購入が最も多く、他所での購入は、「留萌市の商店」（二八）を除いてほとんどない。これは最寄品の性質上、當然のことであろう。ただ、留萌市の商店から購入するものが

全體の二三%もあるのは、留意を要する。

次にこれを職業別にみると、たいていの家庭で購入されているが、ただ「勞務者」や「会社員」の家庭では少いようである。

さらにその購入者に、「父」（五五）、「母」（四四）の多いのは、家庭用品たる性質上、當然のことであろう。

㈣ 時　計

記入者八八のうち、「町内の小賣店」（四三）からの購入が約半分をしめているが、「留萌市の商店」（二四）からの購入も全體の二七%で、輕視はできない。また「旭川市の小賣店」（六）、「旭川市の百貨店」（二）、「札幌市の百貨店」（五）、「内地都市の商店」（二）からの購入もかなりみられる。もともと時計は多分に買回品的な商品であるから、とくに高級なものが、旭川市や札幌市の百貨店や專門店で購入されるのは當然であろう。ゆえに、地元の購買力が、相當、他所へ向つているのは事實とせられよう。

次にこれを職業別にみると、「公務員」、「教員」の家庭で多く購入され、「漁業」ではそれが多くない。

さらにその購入者に、「父」（四一）が最も多く、次いで「兄」（二〇）の順となり、「母」（一四）の購入はあまり多くない。

㈤ ミシン

記入者六五のうち、「町内の小賣店」（二三）からの購入が多いが、しかし、「留萌市の商店」（一五）、「札幌市の小賣店」（一〇）、「旭川市の小賣店」（七）、「他の町の商店」（四）、「内地都市の商店」（三）――などから、少なからず購入のみられるのは留意を要しよう。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもあまり多くは購入されていないようである。理由は、高價品であること

と、度々、購入する必要のないものであるためであろう。

さらにその購入者に、「父」（二七）、「母」（一六）、「姉」（一二）が多くみられるのは、その價格の高いことと、用途にもとづくためであろう。

㈥ 自轉車

記入者六七のうち、「町内の小賣店」（四四）からの購入が多くて過半をしめているが、「留萌市の商店」（一〇）、「旭川市の小賣店」（四）、「札幌市の百貨店」（二）などからの購入が少くないのも輕視できない。

次にこれを職業別にみると、「商店主」の家庭で割合に多く購入されているほか、他の家庭ではあまり多くない。これは同町並びに周邊地帶の地勢が自轉車の利用を十分に許さぬためであろう。

さらにその購入者に、「父」（四三）が最も多く、「兄」（一六）がそれに次いでいるのは、當然のことであろう。また「母」（四）や「姉」（二）の購入が少々みられるのは、主に子供用の自轉車についてのものと思われる。

㈦ 米

記入者一三九のうち、大部分は「町内の小賣店」（一二五）から購入しており、他の商品のように、「留萌市の商店」からの購入は一つもない。地元の「漁業協同組合」（二）からの購入も僅少ながらみられる。また「その他」（一一）からの購入が少々あるのは、近隣の農家などから購入しているのを示すものであろう。

次にこれを職業別にみると、當然のことながら、どの家庭でも購入されている。

さらにその購入者に、「母」（九四）が最も多いのは當然のことであろうが、また「父」（二三）、「姉」（一一）、「自分」（五）、「兄」（四）――というように、他の家族の人々もそれにあつている。

㈧ 味　噌

記入者一四四のうち、「町内の小賣店」（一二九）からの購入が最も多いが、「留萌市の商店」（七）、「その他」（五）からの購入も少々みられる。

次にこれを職業別にみると、必要な食料品であるため、どの家庭でもほとんど購入している。

さらにその購入者に、「母」（九五）がはなはだ多いこと、また「姉」（一六）、「妹」（七）、「自分」（二）などがみられるのは、食料品である性質上、當然のことであろう。

(九) 醤　油

記入者一五二のうち、「町内の小賣店」（一二八）からの購入が最も多いが、また「留萌市の商店」（一二）、「旭川市の小賣店」（一）、「旭川市の百貨店」（二）、「札幌市の小賣店」（二）、「漁業協同組合」（一）、「他の町の商店」（一）――など、他の食料品と異り、各地の商店で購入されるものの少くないのは留意を要する。

次にこれを職業別にみると、味噌と同様、どの家庭でも購入されている。

さらにその購入者に、「母」（九五）が最も多いが、また「姉」（一九）、「自分」（一二）、「妹」（八）、「父」（一〇）――など、母のほかの人々も、かなり手傳いしているのがみられる。

(一〇) 酒

記入者一三〇のうち、「町内の小賣店」（一二四）からの購入が壓倒的に多く、他は、はなはだ少い。これは、酒の大部分が有標品であつて、價格が統一されているため、いずこの場所で購入するとも、なんの變りもないことによるのであろう。

次にこれを職業別にみると、「漁業」、「商店主」、「工場主」、「その他」の家庭で購入するものが多い。「勞務者」、「教員」などでは、それが多くない。

さらにその購入者に、「母」（六五）の購入が多くみられるが、また「父」（三二）の購入もかなりあるのは、用途の然らしめるところであろう。

㈢　砂　糖

記入者一六〇のうち、「町内の小賣店」（一三〇）から購入するものが最も多いが、「留萌市の商店」（二三）からの購入も少くない。

次にこれを職業別にみると、ほとんどすべての家庭で購入していて、特記するほどのことはない。

さらにその購入者に、「母」（一一一）が最も多いのは當然のことであろうが、また家事の手傳いとして「姉」（一三）、「妹」（一一）、「自分」（一〇）などによる購入も少なからずみられる。

㈣　野　菜

記入者一一一のうち、「町内の小賣店」（八八）からの購入が最も多いのは、當然のこととしても、「留萌市の商店」（一四）からの購入が一〇％以上もあり、また「他の町の商店」（四）、「その他」（四）からの購入も少くないのは、注目を要しよう。野菜のようなものは、地元の商店で購入されるのが通常のことであるのに、それが留萌市や他の町での購入が少くないのは、増毛町における野菜の値段の高いことに基因しており、衣料品などを購入に行つたついでに求められるものが少くない。毎日、町民の食膳に供される必需品である點にかんがみ、生活の安定上、關係者のとくに留意すべきことであろう。

次にこれを職業別にみると、たいていの家庭で購入されているが、「その他」（農家が多い）の家庭では非購入者の方が多く、また「公務員」などの家庭でも購入するものが少いのは、自家產のものを消費しているためと思われる。

さらにその購入者に、「母」（八七）が最も多く、また「姉」（一一）、「自分」（六）などの少くないのは手傳い

をしているものである。

㈢ 魚　類

記入者一二九のうち、「町内の小賣店」（一一四）からの購入が壓倒的に多く、他所での購入が少いのは、同町沿岸で多くの魚類が水揚げされているためである。

次にこれを職業別にみると、たいていの家庭で購入しているが、ただ「漁業」の家庭で非購入者が四〇％弱あるのは、自家産消費が多いためであろう。

さらにその購入者に、「母」（八七）が最も多いのは當然のことであろうが、前記の野菜と異り、「父」（一六）の購入がかなり多いのは、値段や嗜好などによるものであろう。

㈣ 果　物

記入者一三五のうち、「町内の小賣店」（一一七）からの購入が最も多いが、また「留萌市の商店」（七）、「その他」（七）、「旭川市の小賣店」（二）などからも少々購入されている。

次にこれを職業別にみると、どの家庭も相當に購入しているが、ただ「その他」の家庭では農家を含んでいるため、あまり購入しないものがある。

さらにその購入者に、「母」（八九）が最も多く、次いで「姉」（二一）、「自分」（七）などがみられる。

㈤ 菓　子

記入者一五九のうち、「町内の小賣店」（一三五）からの購入が最も多い。また「留萌市の商店」（一五）からの購入が一〇％たらずみられるのは留意を要する。

次にこれを職業別にみると、たいていの家庭で購入していて、特記するほどのことはない。

さらにその購入者に、「母」（八九）が最も多いが、また「姉」（二五）、「自分」（一八）、「兄」（四）、「弟」（四）、「妹」（四）――など、家族のだれもが、多少とも、それにあたつているのは、各自の食用に供するものの購入であろう。

㈥　文房具

記入者一四九のうち「町内の小賣店」（一二〇）からの購入が最も多い。しかし「留萌市の商店」（二四）からの購入が少くないのは留意を要する。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもよく購入されていて、特記することはない。

さらにその購入者に、生徒自身を示す「自分」（五六）の最も多いのは、「兄」（一〇）、「弟」（一三）、「姉」（一二）、「妹」（一〇）――などの購入がかなりあるのとともに、各自の使用にあてるための購入であろう。ここでは、「母」（二七）や「父」（一四）の購入は、他の商品の購入にくらべて少い。

㈦　書籍

記入者一四一のうち、「町内の小賣店」（七九）からの購入が多いが、同時に、「留萌市の商店」（四六）からの購入が三〇％以上もあるのも留意を要する。また「通信販賣」（七）からの購入が少々みられること、「札幌市の百貨店」（三）も少しあることなどは、特殊な書籍の購入であろう。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもよく購入しているが、ただ「漁業」と「その他」の家庭では、購入度が低いように思われる。

さらにその購入者に、家族のすべてがあたつていて、そのうち、生徒自身を示す「自分」（三七）は、參考書などを買求めているものと察せられ、また「父」（三三）、「兄」（二五）、「母」（一九）、「姉」（一〇）、「弟」（七）、

「妹」（六）――などの購入も少くないのは、それぞれの読物として、文学書、参考書、教養書などを買求めているためであろう。

㈥ 雑　誌

記入者一四三のうち、「町内の小賣店」（九八）からの購入が多いが、また「留萌市の商店」（三四）、「通信販賣」（四）、「他の町の商店」（三）――などからの購入が少くないのも輕視できない。雑誌のようにどこで買求めても差のないものを、わざわざ留萌市の書店で買求めるもののかなりあるのは（二四％）、その購買動機を察するに苦しむほどである。

次にこれを職業別にみると、どの家庭でもよく購入していて、とくに「教員」の家庭が多いようである。

さらにその購入者に、上記の書籍の場合よりも、一層、廣く家族の各人にわたつていて、「自分」（三三）、「姉」（二六）、「兄」（二四）、「父」（二一）、「母」（一八）、「弟」（九）、「その他」（七）、「妹」（五）――というように、年齢別、性別にそれぞれ適當な雑誌が購読されている。

㈦ スポーツ用品

記入者一〇八のうち、「町内の小賣店」（五五）、「留萌市の商店」（四〇）の兩者からの購入が最も多い。また「札幌市の百貨店」（三）、「札幌市の小賣店」（二）、「旭川市の小賣店」（二）、「旭川市の百貨店」（一）からも少々購入されている。地元の商店で購入されるものが全體の半分にすぎないのは、結局、町内の人々の滿足を得る商品の少いためと察せられる。

次にこれを職業別にみると、「教員」の家庭で多く購入されているが、「勞務者」の家庭ではそれが少い。

さらにその購入者に、「自分」（三二）、「兄」（二四）、「弟」（一九）、「姉」（四）、「妹」（二）――という

商品別の購入先一覧（増毛町）

（昭和29年5月）　　小樽商科大學商業學研究室

札幌市の百貨店	漁業協同組合	他の町の商店	内地都市の商店	通信販賣	その他	合計
5	2				2	146
9	2	1	1		6	96
4			1	1	2	78
2		1			2	106
2		3		1	6	123
1	1	2			5	150
2	1	1		1	7	129
4		2	1		9	100
1	1	2			1	123
	2	4	1			77
2	1	1	2	1	2	106
2		3	1			103
5		1			1	119
1		2	2	1	2	88
2	1	4	3	1		65
		2	2	1	2	67
	2	1			11	139
		2	1		5	144
	1	3	1		2	152
		3			2	130
		3			2	160
		4			4	111
	1	1			6	129
		1			7	135
		4			3	159
		3		1	1	149
3		2		7	2	141
		3		4	2	143
3		2	1		2	108
3		2	1		1	74
	29		2			45
	27	1	2		1	49

第3表　　北海道消費調査——

商品別＼購入先別	町内の小賣店	留萌市の商店	旭川市の小賣店	旭川市の百貨店	札幌市の小賣店
服地（生地）	68	55	11	2	1
背廣服	35	31	7	4	
婦人服	32	32	4	2	
子供服	52	40	6	2	1
呉服・反物	55	44	8	3	1
シャツ等下着	89	45	4	3	
毛糸	71	34	5	4	3
セーター	51	28	3	1	1
帽子	84	25	5	4	
ゴム靴	48	21	1		
皮靴	41	38	11	3	4
家具類	58	30	7	2	
金物	86	28	1	1	1
時計	43	24	6	2	1
ミシン	23	15	7		10
自轉車	44	10	4		
米	125				
味噌	129	7			
醤油	128	12	1	2	2
酒	124	1			
砂糖	130	23	2		
野菜	88	14	1		
魚類	114	6			1
果物	117	7	2	1	
菓子	135	15	2		
文房具	120	24			
書籍	79	46	1		1
雜誌	98	34	1	1	
スポーツ用品	55	40	2	1	2
玩具	44	18	2	2	1
漁網	11	3			
漁業用資材	15	1	2		

第4表 北海道消費調査——商品別職業別の購入者非購入者（増毛町）

昭和29年5月 小樽商科大學商業學研究室

職業別 / 購入者非購入者別 / 商品別	公務員		勞務者		教員		會社員		漁業		商店主		工場主		その他	
	購	非	購	非	購	非	購	非	購	非	購	非	購	非	購	非
服地(生地)	16	1	3	2	9	0	5	2	47	10	9	12	1	1	37	7
背廣服	11	6	3	2	7	2	4	3	36	21	12	9	0	2	22	22
婦人服	11	6	3	2	5	4	3	4	33	24	10	11	0	2	17	27
子供服	11	6	3	2	7	2	3	4	39	18	12	9	2	0	27	17
呉服・反物	12	5	3	2	9	0	3	4	41	16	17	4	1	1	30	14
シャツ等下着	14	3	4	1	9	0	4	3	52	5	21	0	1	1	39	5
毛糸	14	3	2	3	8	1	4	3	45	12	18	3	1	1	30	14
セーター	11	6	4	1	6	3	2	5	38	19	12	9	1	1	23	21
帽子	13	4	4	1	7	2	3	4	45	12	15	6	2	0	31	13
ゴム靴	7	10	1	4	2	7	1	6	43	14	7	14	0	2	15	29
皮靴	13	4	2	3	8	1	3	4	37	20	11	10	1	1	28	16
家具類	9	8	1	4	8	1	3	4	39	18	15	6	0	2	26	18
金物	13	4	2	3	8	1	4	3	41	16	17	4	1	1	31	13
時計	14	3	2	3	7	2	3	4	30	27	10	11	1	1	25	19
ミシン	5	12	0	5	6	3	2	5	27	30	11	10	0	2	17	27
自轉車	3	14	1	4	3	6	2	5	28	29	12	9	0	2	19	25
米	17	0	4	1	9	0	6	1	50	7	19	2	1	1	29	15
味噌	16	1	4	1	9	0	5	2	53	4	18	3	2	0	37	7
醤油	16	1	5	0	9	0	6	1	53	4	19	2	2	0	40	4
酒	11	6	2	3	5	4	5	2	49	8	20	1	2	0	36	8
砂糖	17	0	5	0	9	0	6	1	54	3	19	2	2	0	43	1
野菜	11	6	4	1	7	2	5	2	44	13	18	3	1	1	21	23
魚類	13	4	5	0	9	0	6	1	40	17	21	0	1	1	32	12
果物	13	4	4	1	8	1	5	2	51	6	19	2	2	0	33	11
菓子	15	2	4	1	9	0	6	1	54	3	18	3	2	0	42	2
文房具	17	0	4	1	8	1	6	1	50	7	18	3	2	0	37	7
書籍	13	4	4	1	8	1	6	1	46	11	18	3	1	1	30	14
雜誌	13	4	4	1	9	0	6	1	50	7	19	2	0	2	38	6
スポーツ用品	11	6	1	4	8	1	5	2	35	22	15	6	1	1	26	18
玩具	7	10	1	4	3	6	5	2	30	27	10	11	1	1	15	29
漁網	0	17	0	5	0	9	1	6	39	18	4	17	0	2	0	44
漁業用資材	0	17	0	5	0	9	1	6	41	16	4	17	0	2	1	43

（註） 購入者非購入者の欄のうち、購は購入者、非は非購入者を示す。

第5表　北海道消費調査——商品別の購入者（増毛町）

昭和29年5月　小樽商科大學商業學研究室

購入者別 / 商品別	父	母	兄	弟	姉	妹	自分	その他	合計
服地(生地)	21	79	9		25		9	3	146
背廣服	37	34	15		9			1	96
婦人服	2	46	1		29				78
子供服	8	78	2	3	14	1			106
呉服・反物	9	91	3	1	16		2	1	123
シャツ等下着	14	96	6	1	19	2	11	1	150
毛糸	15	69	3	1	33	2	4	2	129
セーター	8	52	2		29	2	4	3	100
帽子	13	65	10	6	16		12	1	123
ゴム靴	29	26	9		2	1	8	2	77
皮靴	35	27	18		12		9	5	106
家具類	45	53	3					2	103
金物	55	44	10	2	3		3	2	119
時計	41	14	20	1	8		3	1	88
ミシン	27	16	7		12		2	1	65
自轉車	43	4	16		2			2	67
米	22	94	4		11		5	3	139
味噌	6	98	2	1	16	7	11	3	144
醤油	10	95	2	2	19	8	12	4	152
酒	32	65	6	4	8	1	11	3	130
砂糖	8	111	1	2	13	11	10	4	160
野菜	4	87			11	1	6	2	111
魚類	16	87	3		14		3	6	129
果物	6	89	2	1	21	3	7	6	135
菓子	11	89	4	4	25	4	18	4	159
文房具	14	27	10	13	12	10	56	7	149
書籍	33	19	25	7	10	6	37	4	141
雑誌	21	18	24	9	26	5	33	7	143
スポーツ用品	17	7	24	19	4	2	32	3	108
玩具	16	24	5	5	12	6	2	4	74
漁網	37	1	6					1	45
漁業用資材	40	1	7					1	49

ように、家族の多くのものがみられるのは、各自の使用に供するものを買求めているものと察せられる。また「父」（一七）、「母」（七）の購入は、ともに子供たちの使用するものであろう。

(二)　玩　具

記入者七四のうち、「町内の小賣店」（四四）からの購入が多いが、「留萌市の商店」（一八）からもかなり購入されている。また「札幌市の百貨店」（三）、「札幌市の小賣店」（一）、「旭川市の小賣店」（二）、「旭川市の百貨店」（二）、「他の町の商店」（二）――など、遠方の都市で購入されるものの少くないのも留意を要しよう。

次にこれを職業別にみると、その用途が主に乳幼兒のものにかぎられているためか、あまり廣く購入されておらず、ただ「会社員」、「漁業」の家庭で購入者が非購入者をこえているぐらいである。

さらにその購入者に、「母」（二四）、「父」（一六）の多いのは當然のことであろう。しかし、他の家族のものも「姉」（一二）、「妹」（六）、「兄」（五）、「弟」（五）、「自分」（二）、「その他」（四）――というように、一様に、多少とも購入しているのは、興味ある事實といわねばならぬ。

(三)　漁　網

記入者四五のうち、「漁業協同組合」（二九）からの購入が多く、次いで「町内の小賣店」（一一）となつている。また「留萌市の商店」（三）、「内地都市の商店」（二）からの購入が僅少ながらみられる。

次にこれを職業別にみると、「漁業」の家庭で購入するものの多いのは當然のことであろうが、ほかに「商店主」の家庭で少々みられる。

さらにその購入者に、「父」（三七）、「兄」（六）が主にあたつているのは、當然のこととせられよう。

(三)　漁業用資材

記入者四九のうち、「漁業協同組合」（二七）からの購入が多く、次いで「町内の小賣店」（一五）となつていること、前記、漁網の場合と同様である。

次にこれを職業別にみると、「漁業」の家庭からの購入が多いのは當然のことであり、ほかに「商店主」の家庭でも少々購入している。

さらにその購入者に、「父」（四〇）、「兄」（七）の多いのは當然のことであろう。

三　要　約

以上、増毛町における衣料品關係、食料品關係、家庭用品關係、漁業用資材關係など――三十二品目につき、それらの購入先と購入者とを調査した結果を略述した。これによつてみるとき、全體を通じ、購入先として最も多くえらばれているのは、當然のことながら、「町内の小賣店」であるが、しかし、「留萌市の商店」からの購入もはなはだ多く、商品によつては――たとえば衣料品のように――増毛町の商店からのそれと大差のないものもみられる。さらに、それらより相當下つて「旭川市の小賣店」があるが、「百貨店」からの購入については、旭川市と札幌市のそれぞれの間に、あまり差はないようである。いま、町内の小賣店や他の都市、地方の商店で、主にどのような商品が購入されているかをみると、左のとおりである。

(一)　「町内の小賣店」――で非常に多く購入されているもの

米、味噌、醤油、砂糖、酒、野菜、魚類、果物、菓子、文房具、雑誌

(二)　「町内の小賣店」――で比較的多く購入されているもの

シャツ等下着、毛糸、セーター、帽子、ゴム靴、家具類、時計、金物、自轉車、書籍

(三)　「留萌市の商店」――からの購入が、「町内の小賣店」からの購入とあまり違わぬもの

服地、背廣服、婦人服、子供服、呉服・反物、皮靴、スポーツ用品

(四)「旭川市の小賣店」――でかなり購入されているもの

服地（生地）、背廣服、子供服、呉服・反物、毛糸、帽子、皮靴、家具類、時計、ミシン、自轉車

(五)「旭川市の百貨店」――で少いながら購入されているもの

背廣服、婦人服、呉服・反物、毛糸、帽子、皮靴、時計、玩具

(六)「札幌市の小賣店」――で購入され、少々、めだつもの

ミシン、毛糸、皮靴、スポーツ用品

(七)「札幌市の百貨店」――で購入され、めだつもの

服地、背廣服、婦人服、セーター、時計、皮靴、自轉車、書籍、スポーツ用品、玩具

(八)「漁業協同組合」――で多く購入されているもの

漁網、漁業用資材

(九)「内地都市の商店」――で購入され、やや、めだつもの

ミシン、靴皮、時計、自轉車

(〇)「通信販賣」――の利用されているもの

書籍、雑誌

要するに、増毛町の人々の購買力は、主に「町内の小賣店」と「留萌市の商店」の兩方に向つており、むしろ、兩方に等分されていると稱してもよいぐらい、留萌市に向うものが多い。しかも、兩方に向う購買力が商品別に違つていて、すなわち、地元商店に向うものは食料品に多く、留萌市に向うものは衣料品などに多いことがみられる。した

がつて、地元商店のうち、衣料品を取扱うものは、商業經營上、最も大切な要件とされる購買力の集中に、はなはだ不利な現狀にあるものといわねばならぬ。また、食料品などにあつても、增毛町の物價高を理由に、留萌市の方へ買物に出掛ける人の少くないのは、地元の業者として十分に留意すべきことであろう。

さらに、かなり價格の高い商品については、旭川市の商店で購入されているものの少くないことや、遠く札幌市の商店で購入されているもののあることも、漁業地帶にある增毛町の商店としては對抗することがむずかしいとはいえ、今後における交通機關の發達や生活樣式の變化などをあわせ考え、つねにその對策を怠つてはならぬのである。

なお、增毛町の物價高のために、その購買力の多くが留萌市に向つていること、上述のとおりであるが、それでは物價高の實情は、いつたい、どのようなものであろうか。上述の「消費調査」に附して、若干、實情を調査したので、節を改め、それらについて論述しておこう。

三　增毛町に於ける高物價の実情

一　物價高の割合

まず增毛町における物價がどのような狀況にあるか、一般に高いとはいわれているが、それを明確に示す資料、統計の類は町役場や商工團體などになかつたので、前記、增毛高等学校の生徒の家庭について、「高い」、「高くない」――という質問事項（既掲の調査表參照）を示し調査をこころみた。その結果は、世評どおり、調査總數一六二のうち、無記入の四を除いて、「高い」というものは一五二で壓倒的に多く、「高くない」というものは僅か六にすぎない。

そして、その物價が他所にくらべてどれぐらい高いかと聞いてみたところ、左表のとおり、無記入の四七を除き、記入のあつた一〇五のうち、一割が二九、二割が四一、三割が一五――というように、たしかに高いことを感得せしめるほどの割合を示している。大體、二割ぐらい高いというのが多いらしく、商品によつては三割以上のものもみられる。

物價高の割合調査

記入のあるもの　105
記入のなきもの　47

割合	記入數
5分	4
1割	29
1割5分	6
2割	41
2割5分	4
3割	15
4割	2
5割	1
8割	2
10割以上	1

二　價格の高い商品

次に增毛町の商店で取扱つている商品のうち、他の都市のものなどにくらべ、とくに高いと思われるものを調査した。その結果は左表のとおりであつて、最も多いのは衣料品關係のものであり、次いで野菜、食料品となつている。また時計、金物、皮靴、家具などがあげられている。なお、產地高のためか、魚類が高いというものが少くない。

三　留萌市の商店への購買動機

さらに、上記のとおり、留萌市の商店で購入される割合は、はなはだ大きいが、その動機はどのようなものであるか。調査の結果によつてみると次表のとおりである。

価格の高い商品調査

商品名	記入數	商品名	記入數
衣類	47	スポーツ用品	2
呉服・反物	36	機械類	2
服地（生地）	21	砂糖	2
野菜	15	瀬戸物	2
食料品	15	背廣服	1
一般商品	14	帽子	1
菓子	11	玩具	1
魚類	7	セーター	1
時計	7	ゴム靴	1
金物	7	文房具	1
皮靴	7	書籍	1
家具	7	ラジオ部品	1
果物	6	漁具	1
装飾品	2	自轉車	1
小供服	2	石炭	1
毛糸	2		

留萌市の商店への購買動機調査

購入の理由	記入數
値段が安い	102
品物が豊富である	90
サービスがよい	24
品質がよい	14
信用できる	11
スタイルがよい	2

これで分るように、留萌市の商店で購入する理由がすべて合理的なものであつて、いわゆる感情的購買動機に類するものはみられない。すなわち、最も多いのは「値段が安い」というのであつて、この點、增毛町の物價の高いことを端的に示している。次いで留萌市の方が「品物が豊富である」とつげるものが多い。さらに少し下つて、「サービスがよい」、「品質がよい」、「信用できる」、「スタイルがよい」――となつている。このように增毛町の人々が合理的な購買動機をもつて留萌市へ買物に出掛けているということは、地元の商店にとり、今後の經營上、考究すべきものが多々あるといわねばならぬ。

四　札幌市・旭川市の商店への購買動機

さらにまた、增毛町の人々は、往時、かなりの往來をみた旭川市や、今日、本道の中心地である札幌市の百貨店や專門店などで、商品を購入すること少くないが、その動機を調査した結果は下表のとおりである。

すなわち、第一位は「値段が安い」という理由であつて、これはとくに高價な商品について比較せられる。第二位は「出張したついでに買う」というものであつて、商用で、或いは公用、私用で札幌市や旭川市へ出張した場合、たとえ高價な買回品でなくても、購入

札幌市・旭川市の商店への購買動機調査

購入の理由	記入數
値段が安い	87
出張したついでに買う	52
品質がよい	36
信用できる	22
スタイルがよい	5

することとのあるのは旅行者の常であろう。これについても、買物をする機会をもつたという理由のほかに、値段の安いことや品質のよいことなどが購入の動機となつているのである。第三位は「品質がよい」という理由であつて、都市の専門店や百貨店には優良な商品が多いゆえ、これも當然のことと考えられる。第四位は「信用できる」となつているが、これも當然のことであろう。

附　記――

㈠　この調査は北海道廳の「北海道科學研究費補助」（昭和二十八年度、同二十九年度）を受けておこなつたものの一部である。調査と集計はもつと早く終つていたが、種々の都合で印刷に附して發表することが今日までおくれた次第である。

㈡　この調査にあたり、北海道立増毛高等學校の校長堀水孝敬氏をはじめ、教諭、生徒の方々が、調査表の記入その他に、種々、協力してくださつたことに對し、厚く御禮を申しあげる。また、調査表の集計などの事務につき、小樽商科大學學生、本庄淳二君から助力を受けたことに對し、謝意を表する。

――昭和二十九年十月末日稿――